

エネルギー事業と植物工場で 環境の未来づくり

納期
相談
企画力
自信有
コスト
相談
オンリー
ワン技術
メイドイン
ジャパン



回転式栽培装置N・S・M（右）と制御式据置鉛蓄電池（左）

業務内容

クリーン&エコロジーな
環境サービス

発商品

土耕栽培による
「閉鎖型無農薬植物育成機」

司電機産業は創業以来40年、「蓄電池設備」「直流電源装置」「非常用・常用発電設備」といった設備機器の販売とメンテナンスを行ってきた。納入先は各諸官庁や病院、ビル、商業施設等、電機設備の必要な建物すべてが対象となる。例えば、「非常用電源設備」は普段は表舞台に出ないが、非常時には人命や施設を守る大切な設備。非常時に正常に作動するよう、同社が日々のメンテナンスと機器の更新を行っているのだ。

強み

再生可能エネルギーと
バイオ活用技術

同社は、再生可能エネルギーとして注目される太陽光発電システム、太陽電池応用商品にもいち早く着目。平成5年には本部ビルに太陽光発電システムを採用。地球温暖化防止に役立つ環境に優しいエネルギーの開発にも注力している。

また、平成11年から力を入れているバイオ研究では、大阪府立大学と共同で「閉鎖型無農薬植物育成機」の開発に着手。食の面からも未来の環境づくりに貢献している。



司電機本部KRKビル

植物育成機の研究を続ける中で、同社は平成15年、小型の室内植物工場を完成させ、近年ではワサビ栽培の機械化にも成功した。最大の特長は「土耕栽培」である点。露地野菜と同じ味わいと栄養価を追求できる上、気候や天候に左右されずにコンスタントに栽培・収穫できる。実験では葉物野菜やハーブの他、水耕栽培では難しい根菜の栽培も可能にしている。

「育成機の中の葉物を切って食べると、数日後には新しい葉が顔を出します。野菜は本来、土から生まれたのだからもとの形に戻せばいい。水耕栽培は植え替えないと育ちませんが、土なら育苗から育成まで一貫生産ができます」と三好社長は話す。

今後の展望

持てるノウハウを結集し
独自商品の拡充にまい進

植物育成機は、現在のところ大学等の研究室からの需要が中心だ。しかし、将来的には一般家庭での普及を目指しているため、コストダウンはもちろん、環境を制御する際に必要となってくる、植物に最適な生育条件の研究が続いている。さらに、太陽光発電のノウハウを活用した植物育成機も開発している。一方で、東日本大震災後は、太陽光発電と蓄電池を組み合わせた非常用独立電源商品の拡充、販売も目指している。「震災後の法改正で、電源設備のニーズも変化するでしょう。その動きを見据えながら、より安心できる社会づくりに貢献していきます」。

COMPANY PROFILE

司電機産業株式会社

大阪
23

当社の歴史

空調設備・制御盤設計施工を軸に創業した当社は、蓄電池設備、直流電源設備、非常用・常用発電機設備、省エネ機器等の販売と共に環境商品の開発に取り組み、数々の実績を積み重ねてきました。人々の関心を集める蓄電池と自然エネルギーに関しては長年培ったノウハウがあり、それをお客さまへのサービス向上につなげていくのが当面の課題になるでしょうね。

当社の仕事は販売した後が大切。万一の「備え」を我々がしっかり見守ります。

代表取締役 三好 國司さん



■主な事業内容

各種蓄電池、非常用電源機器の販売からメンテナンス等

■主な取引先（納入先）

各諸官庁、ビル、病院、商業施設等

住所／〒573-0137
枚方市春日北町
1-13-6
TEL／072-858-5671
FAX／072-858-4436
創業／昭和46年1月
設立／昭和47年11月
資本金／7,000万円
従業員／7名

<http://www.tsukasa-denki.jp>